

令和5年度

## 在外研究員報告書

所 属	外国語学部 国際英語学科		
職 名	准教授	氏 名	豊田 周子
調査研究題目	資料發掘、女性書寫及文學史重探：論台灣女性日語短詩與主體 形構 (An Exploration of Literary Data: Women's Writing and reexamination of the history of Taiwanese literature)		
研究先国	中華民國・台湾	研究機関	国立台湾大学文学院 台湾文学研究所
期間(西曆年)	2023 年 8 月 1 日 ~ 2023 年 9 月 30 日		
研究員の種類	短期補助研究員		

## 在外研究員報告書用紙

報告者はこの度、上記の研究題目により台湾国家図書館・漢学研究中心が主宰する「外籍学人來台漢学研究奨助」を得る機会に恵まれ、国立台湾大学の訪問学人として、同大学文学院台湾文学研究所の黄美娥教授のご指導のもと、二か月間に亘り研究活動に従事した。

この度の在外研究の目的は、(1) 日本で閲覧不可能な一次資料の収集、(2) 日本統治期に日本語短詩文芸の教育が盛んにおこなわれた台北第三高等女学校（以下、三高女と略記）の関係者へインタビュー調査をすることにあつた。以下、その活動のあらましを述べる。

### (1-1) 文献調査——中央研究院・清華大学

台湾中央研究院には、短歌や俳句など日本語短詩文芸に関する資料千点以上を集めた旧台湾総督府蔵書コレクションが所蔵されている。しかしこの度、同院の「傅斯年図書館」ならびに「人文社会科学聯合図書館」において調査を進めるなかで、予期に反して所蔵資料に欠損が多く認められることが分かった。その一方で、国立清華大学図書館（新竹）に関連資料がまとまって所蔵されていることが確かめられたため、急きよ日頃から学会等研究活動を通じて親交のある、清華大学台湾文学研究所の王惠珍教授にご協力を願ひ出、同教授のお力添えのもと清華大学図書館人社分館に所蔵される『台北歌壇』『台北短歌集』を網羅的に調査することができた。

また同教授の案内のもと、「風の城」と称される新竹・北埔の市街地を参観する機会も得られた。当地の出身である文豪・龍瑛宗（1911～1999）や、台湾映画の先駆者である映画監督・鄧南光（1907～1971）の記念館において、故人の遺物や芸術活動に関する展覧を直に観る貴重な体験ができた。

### (1-2) 文献調査——国家図書館・台湾大学

漢学研究中心の学術交流専門員である葉毅均博士からは、一貫して懇切丁寧なご支援をいただいた。国家図書館に新しく導入されたシステムを初動段階で知り、当館で個人研究室を与えられたことは、資料収集をするうえで大いに役立った。さらに台湾大学では、訪問学人の身分で付属図書館のサービスや大学の WiFi が利用できたため調査効率が格段に上がった。

### (2) 三高女卒業生へのインタビュー調査

在外研究開始後ほどなくして、黄美娥教授より、中央研院台湾史研究所にて創立 30 周年記念イベント「展旗帆揚：中央研究院台湾史研究所三十年慶紀年暨新書発表会」が開催され、その新書発表会で、三高女卒業生のオーラルヒストリー集『百年回眸：台北第三高女校友口述訪問記録』がとりあげられることをご教示いただいた。

その後、黄教授より同研究院台湾史研究所の詹素娟教授をご紹介いただき、詹教授の強力なお力添えのもと新書会に出席された三高女卒業生の方々と面識を得、改めてインタビューを実施する機会をいただいた。インタビューに際しては、三高女同窓会誌編集の重責を長く担われた黄彬彬女史を始めとする数名の方々から、高女時代の学校教育にまつわる数々のエピソードを伺った。さらに黄女史からは、三高女時代の思い出を記した「台北第三高等女学校物語」（中京大学先端共同研究機構社会科学研究所編・オンライン史料『記憶のアーカイブ』、2022 年）、「体育の科学 温故知新——台湾思慕①～⑤」（杏林書院、2021 年 7～11 月）、また同窓会誌など数多くの文献資料／史料もご提供いただいた。

この度の在外研究にあたり、一貫してご指導をいただいた台湾大学文学院台湾文学研究所の黄美娥教授に改めて衷心よりお礼申し上げたい。また同研究所専門事務職員である葉秋蘭女史には日常生活の面できめ細やかな手厚いサポートをいただいた。また同研究所と縁のある趙偵宇先生（南山大学）にも大いなる助力をいただいたこと特記させていただく。

最後に、イレギュラーな形での在外研究を認めてくださった外国語学部、一連の煩瑣な手続きを忍耐強く支えてくださった名城大学総合研究所・学術研究センターに深く感謝申し上げたい。

本在外研究の成果の一部はすでに先日、大学の公開講座において「日台関係の結節点——女性・日本語・文学の視点から」（2023 年 11 月 16 日、名古屋市東生涯学習センター共催）と題して報告しているが、今後さらに精度を上げ早期の公刊を目指したい。